清新二中だより

本校教育目標
１　豊かな心で、互いに敬愛できる人　（敬愛）
２　進んで学び、深く考える人　（知性）
３　健康で明るく、自ら鍛える人　（健康）
４　責任を重んじ、勤労を尊ぶ人　（責任）
５　礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

チャレンジ・ザ・ドリーム

副校長　水　町　周　義

チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験学習）は１９９８年から実施されている兵庫県の「トライやる・ウィーク」が始まりとされている。確かに私は中学校時代には経験したことがない。初めて経験したのは、教員として働き始めた年の８月である。３日間、とあるスーパーの青果売り場で働いた。一般企業の業務の一部でも体験することで、生徒への指導の充実や自分自身の人間性を高めることが目的である。朝礼でのあいさつの掛け声から始まり、業務内容の確認や陳列棚への品出し、毎日変動する価格の確認、小分けする野菜のカットなど、オープン前の仕事は多岐にわたる。オープンしてからも商品の補充や、売れ行きの確認、運搬されてくる品物の整理など、意外とせわしなく動き回っていることには、多少の驚きを感じていた。一緒に働いている店員は常に気を遣ってくれ、声をかけてくれるので、非常に働きやすく、楽しさすら感じていた。

最終日の昼食時、１時間ではあるが、青果売り場で一人きりになった。１時間程度ならと気軽に感じていたが、４分の１サイズのカボチャが残りひとつとなっており、補充が必要であった。不安になった。野菜を小分けにすることは店員が行っていた。なんとなく店員の仕事ぶりを見てはいた。店員が戻ってくるまでは後５０分、「やるしかない」そんなことを思っていたと今でも鮮明に覚えている。

２年生は３日間働いてきた。どんな思いで３日間を過ごしたのだろう。実施前には仕事について学び、社会人としての礼儀やマナーを学び、いざ実践。楽しみが先行していたのか、不安な気持ちもあったのか、仕事は大変と感じたのか、どのような責任を感じたのか、一緒に働く人たちとうまくコミュニケーションはとれたか、送り出した先生方もいろいろ考えてしまうほどなので、生徒はもっと多くのことを感じたことだろう。

実際に何人かの働いている姿を見ることができた。保育園では、周りに集まる子供たちに多少戸惑いながらも、子どもの安全を最優先に考えながら楽しく遊んでいた。小学校では、休み時間での縄跳びや鬼ごっこなどを一緒に楽しみ、授業中は先生の手伝いや見守りをしていた。先生方の仕事を体験して何を感じたのだろう。江戸川陸上競技場では、事情により、たった一人で黙々と働いている姿があった。凛々しく感じられた。消防署では消防服を身にまとったことで、自信と誇りも身にまとっていた。ポニーランドでは、小さい子供にやさしく手を貸し、ポニーに乗せてあげている生徒と、小さな子供を怖がらせることなく優しく歩くポニーの愛情を感じた。スターバックスでは、お客様の声を振り返り、次の接客や商品をより良いものとしようとする向上心があった。整骨院ではお互いが愛情をもってマッサージを練習しているほほえましい姿に、何か安心するものを感じた。

様々な表情が見て取れたが、すべての生徒に共通して、とてもいい顔をしていた。きっとそれぞれが自分なりの「働く意義」を感じ取ってくれたに違いない。そして、保護者や先生の期待に応えてくれた。気持ちよく受け入れてくれた事業所の皆様の期待にも応えてくれた。自分の夢に向かってチャレンジできる生徒たちだと確信した。

翌週、２年生の授業風景や休み時間の様子を眺めていた。いつもとは何か違うものを感じた。挨拶の声からして明らかに大きくなっている。３日間やり切って身に付けた自信を感じた。自分たちのために働いている親への感謝の気持ちを感じた。少し大きく見えた。このチャレンジ・ザ・ドリームは生徒を大きく変えてくれた貴重な３日間であった。